(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4011183号
(P4011183)
(45)発行日　平成19年11月21日(2007.11.21)　(24)登録日　平成19年9月14日(2007.9.14)

(51)Int.Cl.		F I		
A45D 24/22	(2006.01)	A45D	24/22	A
A45D 19/00	(2006.01)	A45D	19/00	B

請求項の数 1　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願平10-60566
(22)出願日　平成10年2月25日(1998.2.25)
(65)公開番号　特開平11-239511
(43)公開日　平成11年9月7日(1999.9.7)
審査請求日　平成17年1月21日(2005.1.21)

(73)特許権者　598033103
河元　盛雄
東京都中野区上鷺宮２－１０－２８
(74)代理人　100091498
弁理士　渡邊　勇
(74)代理人　100092406
弁理士　堀田　信太郎
(74)代理人　100102967
弁理士　大畑　進
(72)発明者　河元　盛雄
東京都中野区上鷺宮２－１０－２８

審査官　櫻井　康平

最終頁に続く

(54)【発明の名称】毛染め用具

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
毛髪を載せて染色剤を塗布するための毛染め用具であって、
先端側の毛髪保持部と基端側のグリップ部とを有し、
前記毛髪保持部はその先端部に櫛部を備え、
前記毛髪保持部の毛髪保持面には凹凸が分散して形成されていて、
前記グリップ部には、染色剤を溜める凹部が形成されていることを特徴とする毛染め用具。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、例えば、美容室等において、毛髪の染色を行なうために用いられる毛染め用具に関する。
【０００２】
【従来の技術】
美容室等において毛染めを行なう場合、例えば、椅子に座った客の後ろに美容師が立ち、一方の手で持った紙の上に適当量の毛髪を取り、他方の手で刷毛を用いてこれに染色剤を塗布するようにしている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記のような従来の方法では、毛髪を手で受けているため、染色剤を安定して塗布することができない。特に、最近のヘアファッションの流行の１つとして、毛髪を複数の色に塗り分けることが「おしゃれ」とされているが、従来の方法では毛髪の支持が不安定であるのでそのような塗り分け作業が困難であった。

【０００４】

この発明は、上記のような課題に鑑み、毛髪に染色剤を安定して塗布することができるような毛染め用具を提供することを目的とするものである。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

本発明の毛染め用具は、毛髪を載せて染色剤を塗布するための毛染め用具であって、先端側の毛髪保持部と基端側のグリップ部とを有し、前記毛髪保持部はその先端部に櫛部を備えていることを特徴とするものである。

【０００６】

これにより、櫛部で毛髪を梳いて整列させた状態で毛髪保持部に安定して保持することができ、染色剤の塗布が容易かつ確実に行える。

【０００７】

また、本発明の毛染め用具は、前記毛髪保持部の毛髪保持面には凹凸が分散して形成されていることを特徴とするものである。これにより、毛髪どうし、あるいは毛髪と保持面の間に隙間を形成して、染色剤の通りを良くすることができる。

【０００８】

また、本発明の毛染め用具は、前記グリップ部には、染色剤を溜める凹部が形成されていることを特徴とするものである。この凹部に染色剤を溜めて作業することにより、作業時間の短縮と周囲への染色剤の飛散を防止することができる。

【００１０】

【発明の実施の形態】

図１ないし図３は、この発明の１つの実施の形態を示すもので、この毛染め用具１０は、全体がほぼ長方形の平板状に構成され、長手方向の一端（先端）側が幅広に形成された毛髪保持部１２であり、他端（基端）側がやや狭幅のグリップ部１４となっている。この毛染め用具１０は、例えばＡＢＳ樹脂のような樹脂素材によって射出成形法を用いて製造されている。

【００１１】

毛髪保持部１２の先端部１６は中央が凹むように滑らかに湾曲しており、その縁部から上面の外側に斜めに突出する複数の櫛歯１８が形成されている。櫛歯１８の高さや櫛歯１８どうしの隙間の寸法は適宜に設定されてよい。また、毛髪保持部１２の上面の毛髪保持面１２ａには、複数の比較的小さい突起２０が均一に分散して形成されている。

【００１２】

この突起２０は、毛髪が毛髪保持面に載せられた時に、毛髪どうし、あるいは毛髪と保持面の間に隙間を形成して、染色剤の通りを良くするためのものである。突起２０の形状、寸法、分布パターン、密度等は上記目的を達成するために適宜に定めることができる。

【００１３】

グリップ部１４は、使う人が片手で持つのに便利なような幅寸法に設定されており、その基端側には、染色剤を溜める凹部２２が形成されている。

【００１４】

以上のように構成された毛染め用具１０を使用する場合には、美容師は一方の手のひらの上にこの毛染め用具１０を毛髪保持部１２が先端側になるように載せ、軽く握って把持する。次に、この用具の先端部の櫛部１８を客の頭部の下側に当て、梳き上げて毛髪保持面１２ａ上に適当量の毛髪を載せる。櫛部１８の作用によって、毛髪保持面１２ａ上に毛髪が一定厚さになるように均される。この際に、上側から別の櫛等を用いてもよい。

【００１５】

次に、他方の手で刷毛を持ち、予め凹部２２に溜めた染色剤を刷毛に付け、毛髪保持面１

２ａ上の毛髪に塗布する。毛髪が長い場合には、毛染め用具１０を順次毛髪の先端側にずらして全長に塗布すればよい。また、この実施の形態の用具を用いると、毛髪に異なる色の塗り分けを行なう場合には、櫛歯１８によって毛髪が整列されているので、塗り分けの境界を明確にすることができる。

【００１６】

塗布が終了した毛髪は、例えば図４に示すようなピンニングロットピン２４によって束ね、さらに、別の毛髪部分を染色する。このピンニングロットピン２４は、金属製の芯材２６と、該芯材を被覆する樹脂チューブ２８と、該芯材２６及びチューブ２８の端部を覆う軟質被膜３０とを有しており、芯材２６の端部が被覆されているので、手や頭部を金属のエッジで傷つけるおそれがない。また、染色剤がピンの内部に入って錆の原因となることも防止される。

【００１７】

このピンニングロットピン２４は、以下のような簡単な工程で作製される。まず、例えば、軟鉄の芯材２６をビニールチューブ２８で被覆したワイヤを所定長さに切断し、その端部を例えば樹脂状成分を含む油性ペンキに浸漬して、これを付着させる。そして、加熱空気を吹き付けて溶媒を乾燥させて飛ばすことにより、端部に被膜３０が形成される。

【００１８】

【発明の効果】

以上説明したように、この発明によれば、櫛部で毛髪を梳いて整列させた状態で毛髪保持部に安定して保持することができるので、染色剤の塗布を作業性良く、容易かつ確実に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】この発明の１つの実施の形態の毛染め用具の平面図である。

【図２】図１の側面図である。

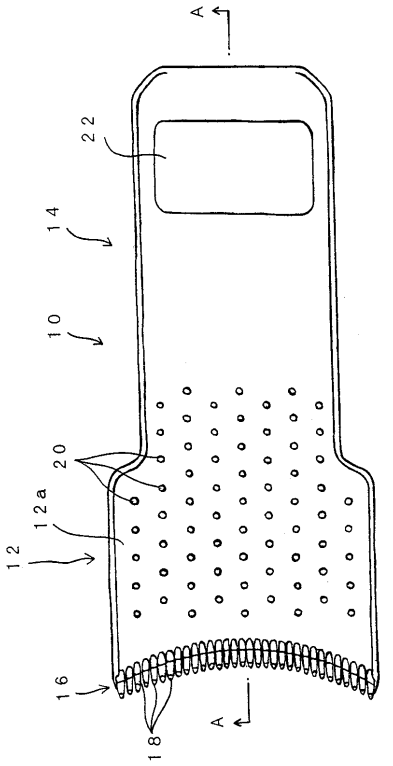
【図３】図１のＡ－Ａ線に沿った断面図である。

【図４】　ピンニングロットピンの（ａ）外観図、（ｂ）断面図である。

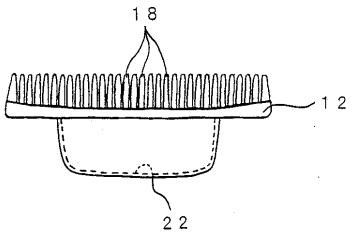
【符号の説明】

１０　毛染め用具
１２　毛髪保持部
１２ａ　毛髪保持面
１４　グリップ部
１８　櫛部
２０　突起
２２　凹部
２４　ピンニングロットピン
２６　芯材
２８　チューブ
３０　軟質被膜

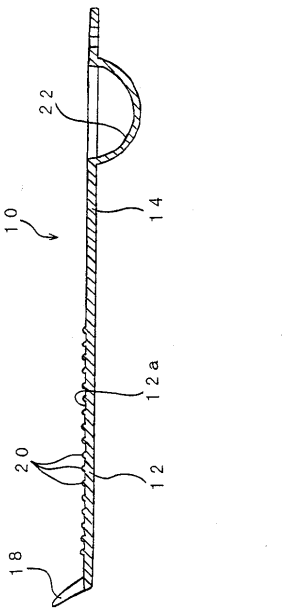
【図１】


A
22
14
10
20
12a
12
16
18
A

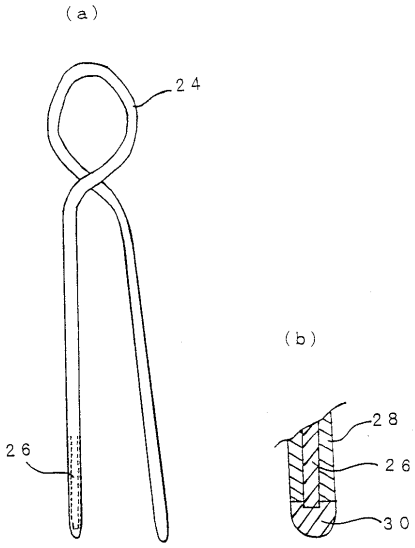
【図２】


18
12
22

【図３】


22
14
10
12a
20
12
18

【図４】


(a)
24
26
(b)
28
26
30

フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０４－０３２６０３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４８－０６０７９６（ＪＰ，Ｕ）
実公昭４４－０２３３９２（ＪＰ，Ｙ１）
実開平０２－０５７４２０（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４８－０３７０９３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５４－１０２３９３（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－１２２６０５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６４－０２８２０４（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A45D 24/22
A45D 19/00